

**決算説明資料  
(2011年度)**

2012年 6月 1日



# 2011年度 決算概要

## 2011年度の総括

●当年度のわが国の経済は、東日本大震災や原子力災害の影響により落ち込んだ企業活動や個人消費には回復傾向が見られるようになってきました。その一方で、厳しい雇用・所得環境、長期化する円高や欧州債務危機に端を発した海外経済の減速懸念等もあり、景気は依然として先行き不透明感を払拭できない状況で推移しました。

●このような厳しい経済環境の中、当社の受注状況は、原子力発電所向けの需要が期初から急増し、年度前半は極めて高い水準で推移、年度後半も一定水準以上を維持しました。さらに、震災復興需要等も加わり、当年度の売上高は124億19百万円と、前年度との比較では、37億23百万円の大幅な増収となりました。

●一方、費用面では、高水準の受注に対する増産体制の整備により、材料費、労務費等の変動費の増加により、売上原価は前年度比で16億74百万円の増加となりました。また、販売費及び一般管理費も、売上高の大幅増加に伴う人件費・諸経費増が避けられず、前年度比で6億96百万円の増加となりました。しかし、売上高の伸びが費用増を大きく上回ったことから、前年度との比較では、売上高に対する売上原価率は8ポイント、販管費率は2ポイントの改善となりました。

●以上のことから、利益面では、営業利益は前年度比13億52百万円増の16億3百万円、経常利益は前年度比13億85百万円増の15億70百万円となりました。また、特別利益が特別損失を7億42百万円上回ったことから、当期純利益は前年度比10億69百万円増の14億8百万円と、過去の業績を大幅に上回る増益決算となりました。

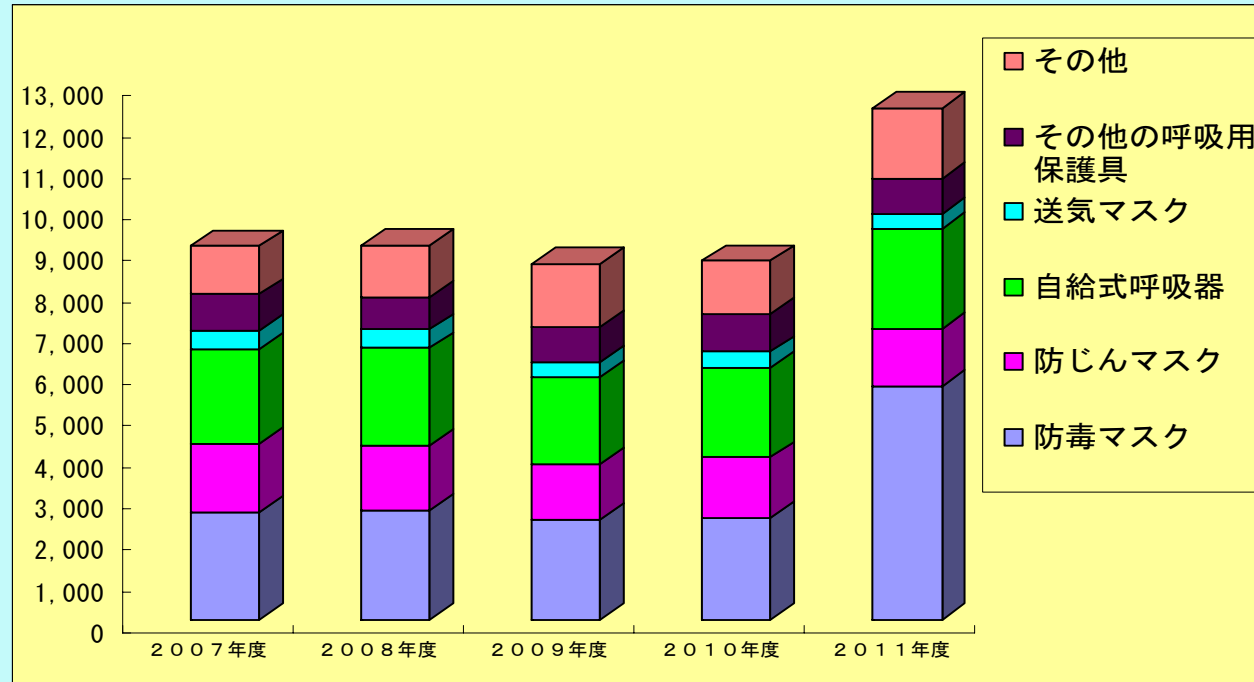
## 2011年度 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2009年度	2010年度	2011年度		
			実績	前々期比増減	前期比増減
売上高	8,643.0	8,695.7	12,419.0	3,776.0	3,723.4
製品製造原価	3,676.2	3,821.0	5,127.1	1,450.9	1,306.1
商品原価	2,410.3	2,366.5	2,734.4	324.1	368.0
売上原価	6,086.5	6,187.4	7,861.5	1,775.0	1,674.1
売上総利益	2,556.5	2,508.2	4,557.5	2,001.0	2,049.2
販売費及び一般管理費	2,180.0	2,257.6	2,954.4	774.4	696.9
営業利益	376.5	250.7	1,603.1	1,226.6	1,352.4
営業外収益	40.3	69.9	73.2	32.9	3.2
営業外費用	100.2	135.8	106.6	6.4	△ 29.2
経常利益	316.6	184.8	1,569.7	1,253.0	1,384.9
特別利益	13.9	406.4	1,137.8	1,123.9	731.3
特別損失	10.9	47.2	395.8	384.9	348.6
税引前当期純利益	319.5	544.0	2,311.6	1,992.1	1,767.6
法人税、住民税及び事業税	76.1	202.2	792.1	716.0	589.9
法人税等調整額	53.4	2.1	111.1	57.7	108.9
当期純利益	190.1	339.7	1,408.4	1,218.3	1,068.7

## セグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

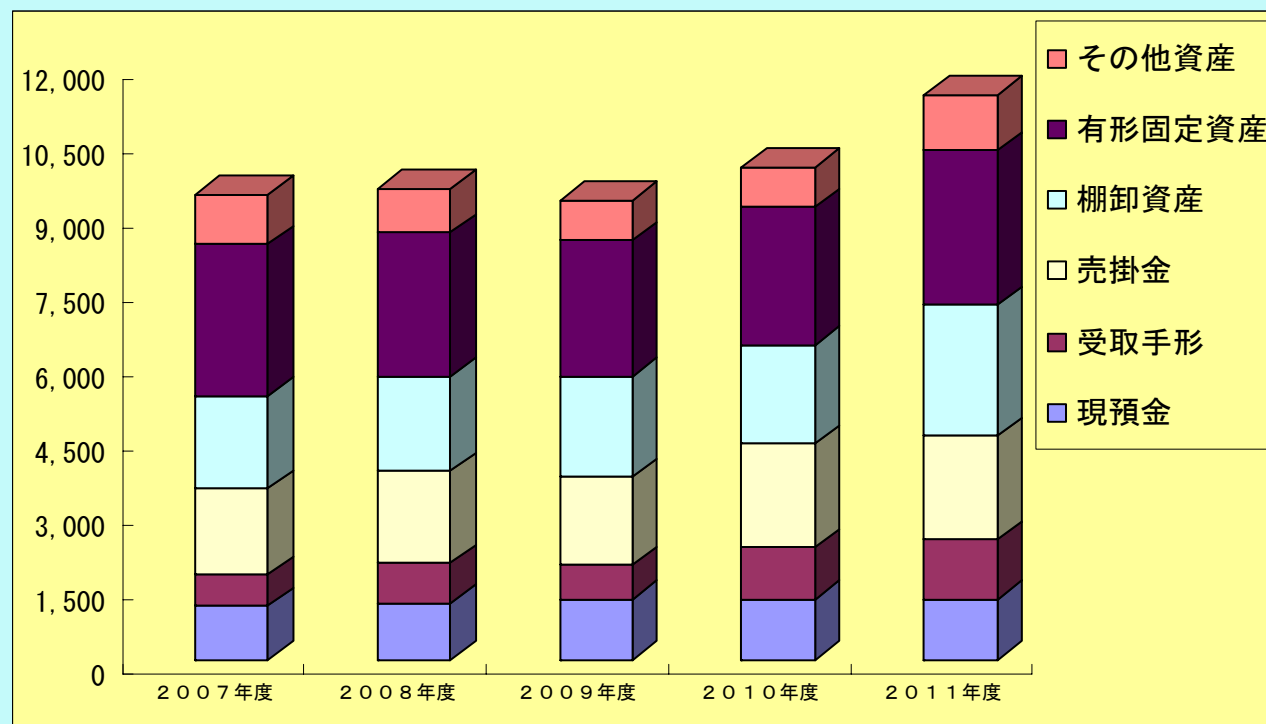
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
防毒マスク	2,622.8	2,658.1	2,442.1	2,489.9	5,666.1
防じんマスク	1,655.3	1,592.5	1,334.3	1,449.4	1,406.5
自給式呼吸器	2,276.7	2,340.8	2,130.0	2,165.6	2,413.4
送気マスク	452.2	446.8	339.7	391.2	370.1
その他の呼吸用保護具	885.1	788.0	870.7	915.7	827.1
その他	1,166.6	1,246.5	1,526.1	1,283.9	1,735.8
合計	9,058.7	9,072.8	8,643.0	8,695.7	12,419.0

## 当年度の特徴

- ① 当年度のわが国の経済は、大震災や原子力災害の影響が残る中、緩やかに回復しつつあるものの、厳しい雇用・所得環境や円高等もあり、景気は依然として先行き不透明な状況で推移しました。
- ② このような環境の中、原子力発電所向けの需要が期初から急増し、年度後半も一定水準以上を維持したことから、売上高は、前年度比37億32百万円の大幅な増収となりました。
- ③ 主要品目別では、原子力発電所向け受注が急増した防毒マスクが、前年度比で31億76百万円の大幅増加となりました。
- ④ 自給式呼吸器も、大震災の影響もあり、前年度比で2億48百万円の増加となりました。一方、この2品目以外の主要品目については、売上は減少しました。

## 主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
現預金	1,096.9	1,140.0	1,220.9	1,229.0	1,232.5
受取手形	616.7	815.3	703.4	1,053.1	1,186.3
売掛金	1,749.6	1,845.7	1,776.5	2,070.0	2,097.5
棚卸資産	1,872.1	1,920.0	2,025.1	2,005.0	2,642.3
有形固定資産	3,051.1	2,909.3	2,730.7	2,774.0	3,132.1
その他資産	1,003.2	886.1	816.7	814.8	1,121.2
合計	9,389.6	9,516.4	9,273.2	9,946.0	11,411.9

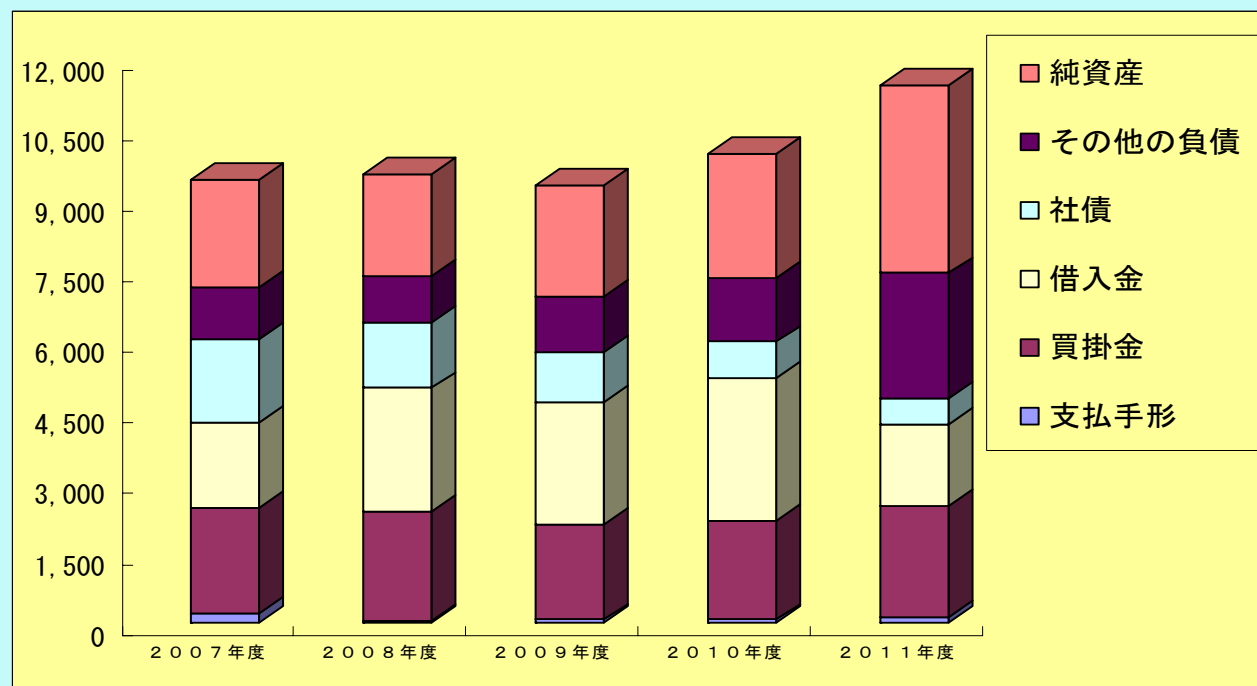
注：本表における受取手形には、手持受取手形他、債権売却未収入金の受取手形を含んでいます。債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

## 当年度の特徴

- ① 現預金は、前年度比ほぼ横這いで、通常の水準を維持しています。
- ② 売上債権（受取手形＋売掛金）残高は、3月末の割引手形残高の増加による受取手形残高の減少もあり、1億61百万円の増加に止まりました。
- ③ 棚卸資産は、原材料、製品、商品、仕掛品全てで増加し、全体では6億37百万円の増加となりました。
- ④ 増産体制の整備に伴う製造・検査設備の増強、各種金型の増型等に加え、新本社社屋の一部改修等もあり、有形固定資産残高は3億58百万円増加しました。
- ⑤ その他資産は、繰延税金資産や長期性預金等の増加により、全体としては約3億円増加しました。

## 主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

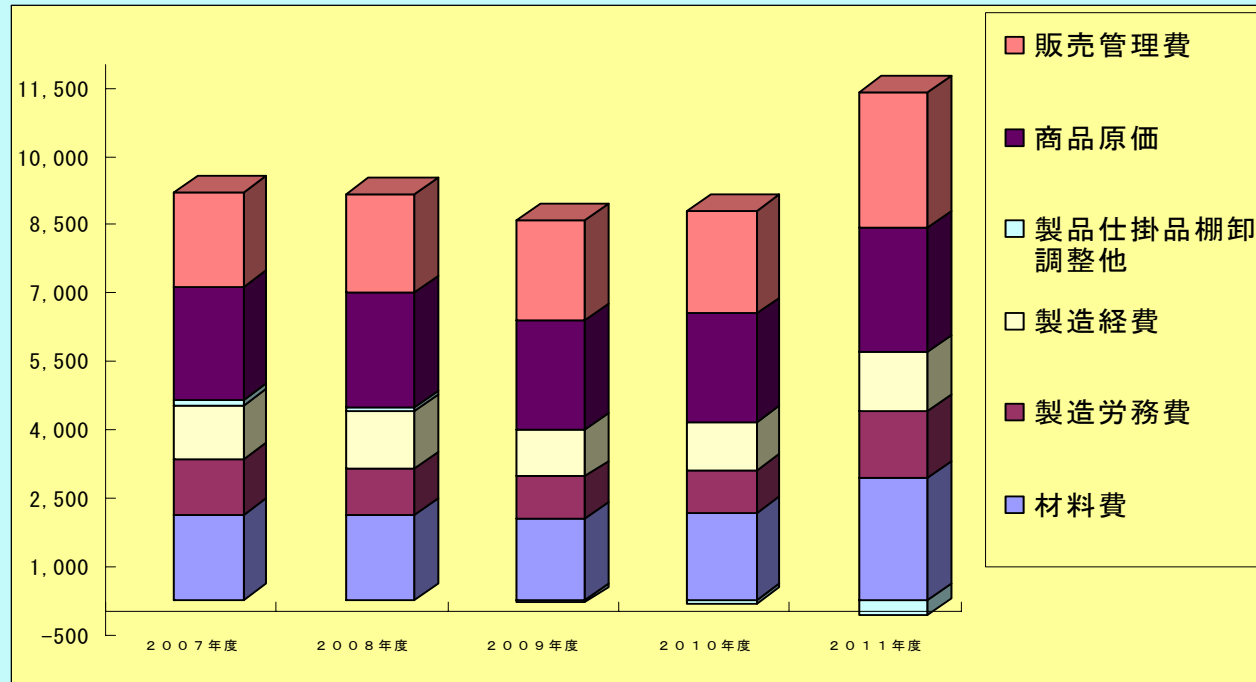
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
支払手形	198.4	40.4	61.2	60.6	117.3
買掛金	2,225.6	2,319.2	2,018.8	2,107.2	2,350.6
借入金	1,838.2	2,619.7	2,601.2	3,022.7	1,746.8
社債	1,743.5	1,409.7	1,075.9	772.1	529.6
その他の負債	1,113.7	970.5	1,168.6	1,338.6	2,671.7
純資産	2,270.2	2,157.0	2,347.5	2,644.8	3,995.9
合計	9,389.6	9,516.4	9,273.2	9,946.0	11,411.9

## 当年度の特徴

- ① 支払債務（支払手形＋買掛金）残高は、埼玉事業所新工場稼働計画に伴う在庫積み増しや新製品の拡販強化等もあり、前年度末比、3億円増加しています。
- ② 一括ファクタリングの利用により、支払債務残高の増加は、買掛金が大部分を占めています。
- ③ 旧東京事業所の譲渡代金による借入金及び社債の期前返済に加え、期末に短期借入金を返済したこともあり、借入金及び社債の残高は、前年度末比で15億18百万円と大きく減少しました。
- ④ 未払法人税、未払費用、繰延税金負債等の増加により、その他の負債は、前年度末比、約13億円増加しました。
- ⑤ 過去の業績を大幅に上回る増益決算による利益剰余金の増加により、純資産は13億51百万円増加しました。

## 売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)



### 当年度の特徴

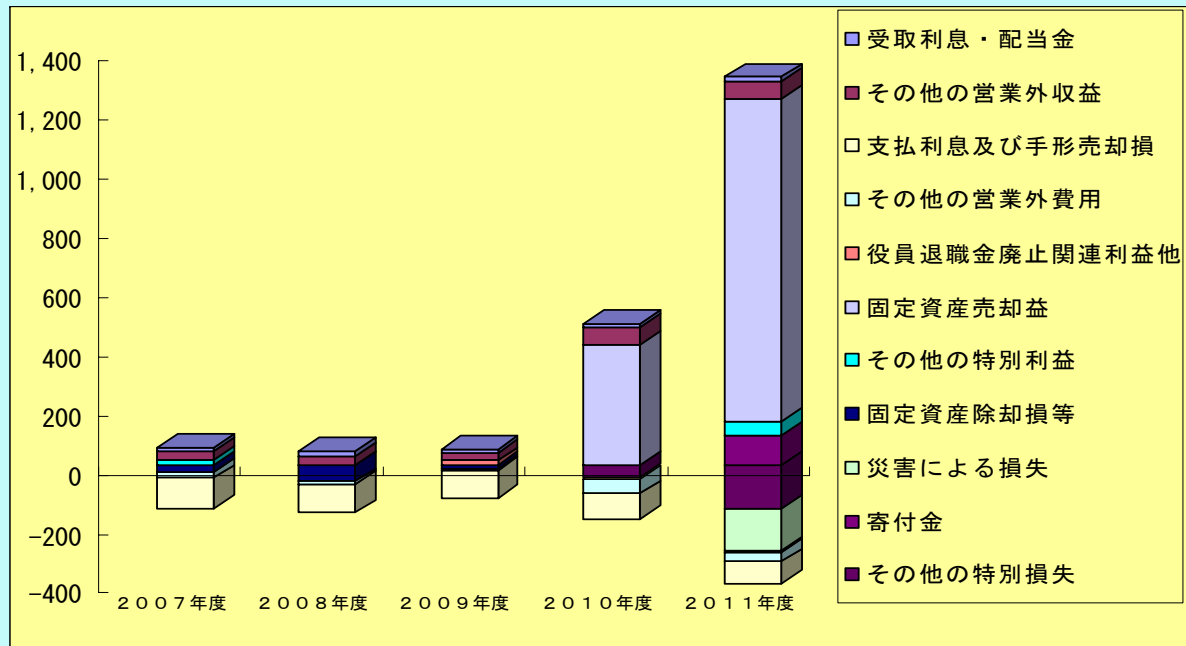
- ① 製造部門は、期初からの増産に伴い、材料費、労務費等を中心に製品製造原価は増加しましたが、売上高の増加が費用増を上回った結果、製品製造原価率は、前年度67.5%から58.2%と大きく改善しました。
  - ・増産による仕入の大幅増加に伴い、材料費は、前年度比で7億67百万円の増加となりました。
  - ・製造労務費は、増産に伴う残業対応や期中社員の採用等もあり、前年度比5億33百万円の増加となりました。
  - ・製造経費は、効率的な経費運営に注力したこともあり、前年度比2億31百万円の増加に止まりました。
- ② 商品原価は、商品売上高の増加に伴う仕入増により、前年度比で3億67百万円の増加となりました。
- ③ 販売費及び一般管理費は、売上高の大幅増加に伴う人件費・諸経費の支出増が避けられず、前年度比6億97百万円の増加となりました。

単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2007年度	2008年度	2008年度	2010年度	2011年度
材料費	1,870.1	1,850.4	1,800.9	1,897.7	2,664.4
製造労務費	1,228.8	1,041.5	901.3	948.4	1,481.7
製造経費	1,176.7	1,267.7	1,037.9	1,066.3	1,297.3
製品仕掛品棚卸調整他	121.2	54.0	△ 63.9	△ 91.5	△ 316.3
商品原価	2,468.7	2,526.3	2,410.3	2,366.5	2,734.4
販売管理費	2,075.0	2,160.0	2,180.0	2,257.6	2,954.4
合計	9,940.2	8,900.0	8,266.5	8,445.0	10,815.9



## 営業外・特別損益推移



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
営業外損益					
受取利息・配当金	16.3	13.6	13.8	12.4	15.8
その他の営業外収益	28.6	29.2	26.4	57.5	57.3
支払利息及び手形売却損	△ 101.4	△ 95.9	△ 92.3	△ 84.1	△ 74.4
その他の営業外費用	△ 20.4	△ 10.0	△ 7.9	△ 51.7	△ 32.1
営業外損益合計	△ 76.9	△ 63.1	△ 59.9	△ 65.9	△ 33.4
特別損益					
役員退職金廃止関連利益	—	—	13.8	—	—
固定資産売却益	—	—	—	405.9	1,089.5
その他の特別利益	15.2	1.1	0.0	0.5	48.3
固定資産除却損等	△ 24.5	△ 56.8	△ 10.9	△ 1.5	△ 6.5
災害による損失	—	—	—	△ 4.2	△ 143.0
寄付金	—	—	—	—	△ 100.0
その他の特別損失	—	—	—	△ 41.5	△ 146.3
特別損益合計	△ 9.4	△ 55.7	2.9	359.2	741.9

(単位：百万円)

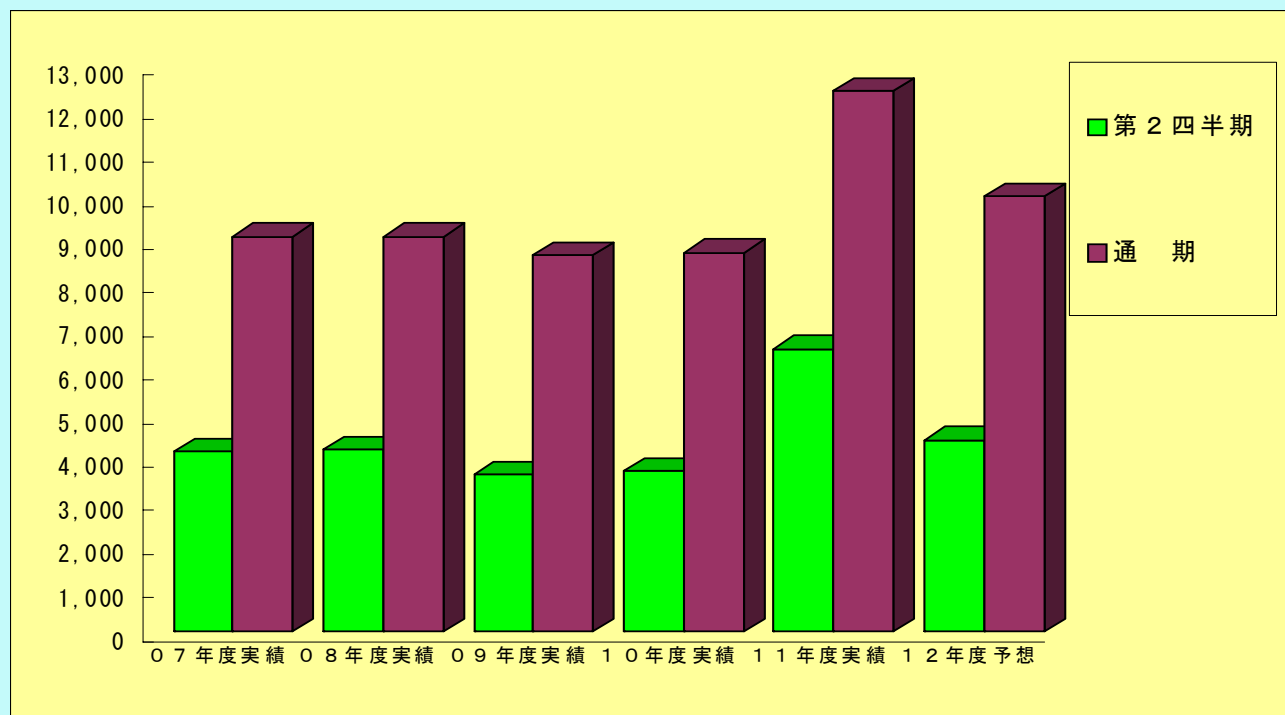
## 当年度の特徴

- ① 受取利息・受取配当金は、前年度比でやや増加、その他の営業外収益は、前年度比横ばいとなりました。
- ② 借入金の減少に伴い、支払利息は減少、割引手形の増加に伴い、手形売却損は増加しました。
- ③ 旧東京事業所の譲渡に伴う固定資産売却益 10 億 89 百万円を特別利益に計上しました。また、船引事業所の震災被害の復旧に関する福島県からの復旧整備補助金 44 百万円をその他の特別利益に計上しました。
- ④ 災害による損失 1 億 43 百万円、福島県への寄付金 1 億円を特別損失に計上しました。また、たな卸資産廃棄損 75 百万円、本社移転費用 31 百万円、埼玉事業所の旧第一工場の解体費用 17 百万円等をその他の特別損失に計上しました。

# 2012年度 業績予想

## 2012年度の売上予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	07年度実績	08年度実績	09年度実績	10年度実績	11年度実績	12年度予想
第2四半期	4,140	4,179	3,602	3,677	6,489	4,400
通期	9,059	9,073	8,643	8,696	12,419	10,000

## 予想のポイント

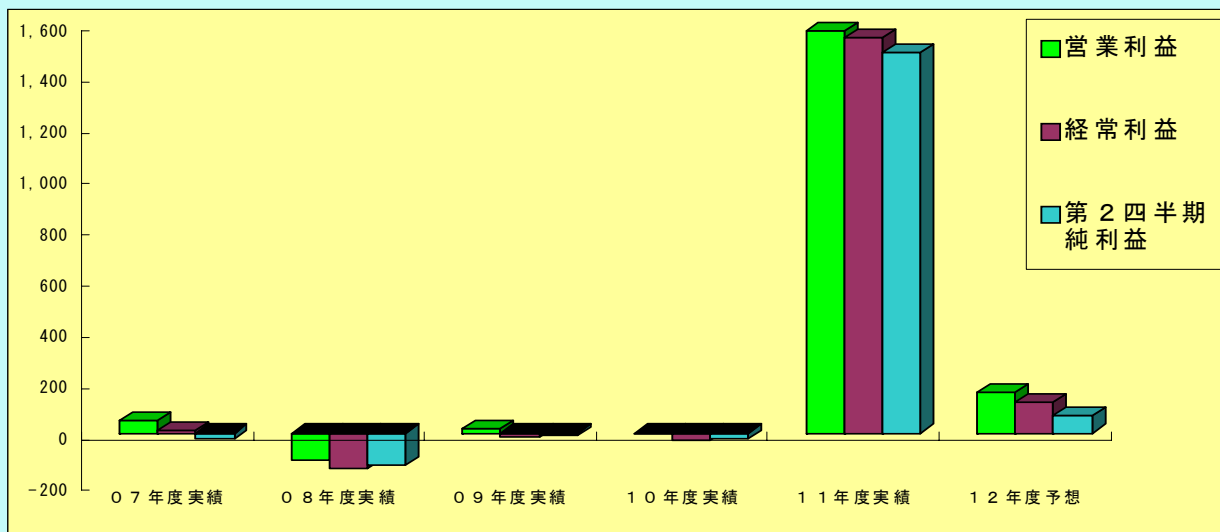
2012年度におけるわが国経済は、震災復興関連予算の執行等の各種の政策効果を背景に、緩やかな回復傾向を示していくと見込まれますが、一方で、不安定な電力供給事情、長期化する円高、海外経済の減速懸念等の不確定要因も多く、景気の先行きは、楽観できる状況にはないと思われまます。

このような不透明な経済環境の中、前年度に急増した原子力発電所向け受注については、大きく減少することは避けられないものの、今後も一定水準以上は継続していくと見込まれます。さらに、本格化する震災復興需要への対応、新製品開発力の強化等により、2012年度の売上高は、前年度比19.5%減の100億円を見込んでいます。

引き続き当社は、労働安全衛生保護具の専門会社として、緊急時における安定供給及び市場の変化に的確に対応した新製品の開発と供給に万全を期してまいります。

## 2012年度 第2四半期の利益予想 (単位：百万円)

## 予想のポイント



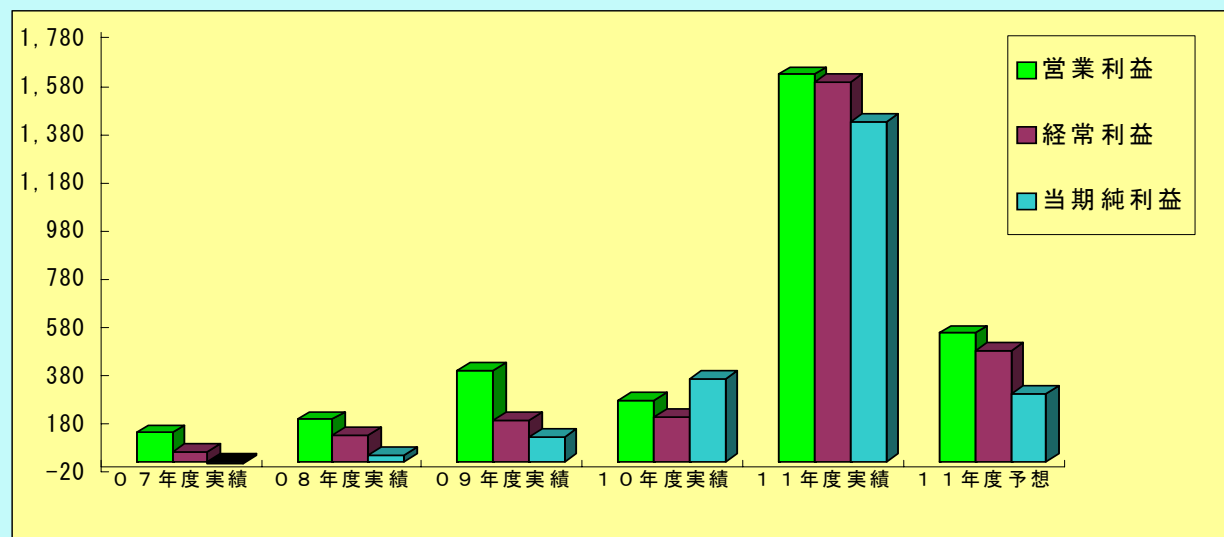
2012年度第2四半期は、一定水準以上の原子力発電所向け受注に加え、震災復興需要や新製品の拡販等も見込まれますが、前年度に急増した売上高は大幅に減少することが避けられないため、大幅な減益を見込んでいます。

単位：百万円、小数点未満四捨五入

	07年度実績	08年度実績	09年度実績	10年度実績	11年度実績	12年度予想
営業利益	50	△108	16	△4	1,576	160
経常利益	11	△140	△14	△31	1,548	120
第2四半期純利益	△22	△124	△7	△23	1,488	70

## 2012年度 通期の利益予想 (単位：百万円)

2012年度通期においても、売上高の大幅な減収が避けられないため、営業利益、経常利益、当期純利益とも減益を見込んでいます。



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	07年度実績	08年度実績	09年度実績	10年度実績	11年度実績	12年度予想
営業利益	118	173	376	251	1,603	530
経常利益	41	110	317	185	1,570	460
当期純利益	△13	22	190	340	1,408	280